

2018（平成 30）年度 事業計画

【羽衣国際大学】

平成 30 年度は、「羽衣国際大学 中期計画（H28 年度～H32 年度）」（以下、「新中期計画」という。）の 3 年目にあたり、同計画の 4 つの重点政策を引き続き着実に実行します。新中期計画は、社会的ニーズと本学の建学の精神、使命・目的を踏まえ、5 カ年で本学の教学上の魅力を飛躍的に向上させることを主たる目標としています。都市型小規模大学としての教育内容と学修成果において競合大学と明確な差異化を図り、社会的評価を得ることが新中期計画の到達目標です。

計画初年度（平成 28 年度）はコース制の見直し、3 つのポリシーの改正及びカリキュラム改革を行い、2 年目（平成 29 年度）は、新カリキュラム・コース制の初年度振り返り、夢支援プログラムの試行実施、学修成果の可視化の検討（部会Ⅰ）、プロジェクト型教育の実施要領の策定（部会Ⅱ）、学生募集の戦略化（新入試制度の検討）、中退予防策の策定と一部実施、組織・人事制度の骨子の提示、情報発信力の強化（HP 全面改定、英語版 HP の構築など）、教育 IR 活動に取り組みました。平成 30 年度は、以上の諸施策の進捗状況を確認し、不十分又は進捗が遅れている分野の改革を重点的に推進します。

新中期計画は、学生募集という点で、平成 28 年度 281 名、平成 29 年度 294 名、平成 30 年度 311 名と 3 年連続入学定員を確保し、平成 26 年度の 206 名から 100 名近く入学者を増やしてきました。大阪府内で 18 歳人口の減少が踊場であったことを勘案しても「競争率のある定員確保」という数値目標に近づいているように見えます。ただ大規模・中規模大学の定員確保の厳格化、景気回復に伴う文系人気（特に経済・経営系、国際・英語系）、アジア系留学生志願者数の増加など、外部要因による追い風の影響も大きいと見なければなりません。日本人学生の増加率が限定的で、学科間の募集状況にばらつきが大きいことから、定員配分の見直し、本学の特性及び地域ニーズを踏まえた学部・学科再編について確たる青写真を描くことが本年度の主要課題の一つです。

<施設設備計画>

- ・ 1 号館～4 号館の外壁補修
- ・ トレーニングルーム完備のクラブハウスの建替
- ・ プロジェクト学修に適した教室整備、教育機器備品の入替

【羽衣学園中学校・高等学校】

羽衣学園中学校・高等学校では、建学の精神や教育理念に基づく、めざすべき学校像の具現化を図り、その達成のための中期的目標を構築したため以下の通り具体的実施項目を定め実施します。

[めざす学校像]

- 1) 豊かな知と健やかな心を育てる人間教育を行い、人々の幸福と社会の発展に貢献できる人材を育成する。
- 2) グローバル化の進む社会に適応できる英語力とコミュニケーション能力を身につけ、広く国際社会で活躍できる人材を育成する。
- 3) 「行きたい」「行かせたい」と言われる、地域に信頼され、誇りとされる学校を目指す。

[中期的目標]

1. 新たな学校としての指導体制・経営基盤の確立
2. 教育内容の充実
 - ①基本的な教育内容の徹底
 - ②ICT化の推進
 - ③国際化の推進
 - ④施設・設備・システムの充実
 - ⑤安全教育の推進
3. 進路指導の充実
4. その他

<施設設備計画>

- ・体育館耐震補強・リニューアル工事
- ・新教務システムの導入
- ・情報教室のPC、システムの更新
- ・特別棟の耐震診断

【法人事務局】

法人独自の取り組みとして、向こう5年間の財務シミュレーションの策定、規模別種別大学法人、大学部門、高校部門別財務分析データ等の比較、その他経営資料の作成、ステークホルダーに対する情報公開等、学校法人としてのコンプライアンスやガバナンスの強化を図ります。

100周年記念事業基本コンセプトを検討し、税額控除寄付金の継続手続きを行います。

各部門への支援業務は、中高部門においては体育館の耐震・リニューアル工事業業に参画します。大学部門においては、外壁改修工事をはじめ、従来の施設整備助言や経理業務支援を行います。

平成29年度に制定した情報セキュリティポリシーに沿った学内研修を行うとともに監事との連携強化を図ります。

その他、理事会・評議員会の日程調整、資料整備、各種団体への対応等を行います。

<施設設備計画>

- ・講堂設備（パイプオルガン、暗幕、放送設備）検討